労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会（第21期・第1回）議事要旨

日時：平成21年7月31日（金） 10：00～12：00

場所：日本学術会議5階 5-C（2）会議室

出席者：吾郷眞一 岸玲子、相澤好治、川上憲人、小林章雄、實成文彦、清水英佑、宮下和久、
和田肇、草柳俊二

欠席者：樋口美雄 春日文子、波多野睦子 村田勝敬

議題：

1. 出席者紹介

出席者による自己紹介があった。

2. 委員長、副委員長、幹事の選出

委員長に岸委員が選出された。つづいて岸委員長より副委員長に和田委員、幹事に川上委員、小林委員とする提案がなされ、承認された。

3. 委員会設置理由の説明

岸委員長より資料2、資料3にもとづき、委員会設置の理由について説明があり、過去30年間に労働衛生関係の提言等はわずかに2つのみである（参考1、参考2）ことなどから、一部、二部、三部合同の本委員会を設置する意義は大きく、過去10数年の労働雇用環境の変化と労働者およびその家族の生活、健康や安全についての問題点の概要を整理・検討するとともに、世界各国の諸機関でどのような対策・対応・提言がなされているかを明らかにし、今後の学術研究組織や体制のあり方を含めて提言をまとめる必要があることが指摘された。

4. 各委員の意見交換

出席の委員により、本課題についての自由な討論が行われた。失業やセーフティーネットについての取り扱い（和田委員）、Health Environment Safetyの考え方（草柳委員）、労働経済、下請けの問題（吾郷委員）、組織のあり方や労働法制度の影響（川上委員）、経済における健康という視点（實成委員）をはじめ、重要な論点が出され議論された。

4. 今後の進め方

- 1) 委員会の設置期間が1年間であり、平成22年4月までに提言・要望などを提出する予定であることから、次回（9月—10月頃）には審議のフレームを固めるとともに、各委員のワーキングペーパーをもとに議論を深め、その後、数回の審議を経て2月頃には一応のとりまとめを行い、3月頃にシンポジウムを開催する方向ですすめることとなった。
- 2) 当面、次回の報告予定者は、草柳委員、川上委員、清水委員、和田委員、宮下委員、さらに次々回以降は實成委員、吾郷委員、相澤委員、小林委員とし、A4で1～2枚程度の資料を出していただいて議論を深めることとなった。
- 3) 本課題についての世界各国の最近の対応等について、課題を限って外部のシンクタンク・調査機関に依頼することを検討することとなった。

- 4) 委員の追加等について次回の幹事会に提案することとした。
5. 次回以降の委員会については改めて日程調整を行うこととした。